

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394100180		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ザ ストーリー東海(ワルツ)		
所在地	東海市富木島町新藤塚30番		
自己評価作成日	令和3年1月30日	評価結果市町村受理日	令和3年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2394100180-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●いつまでも字を書くことを忘れない様、毎日鉛筆を持って脳トレのできる環境に力を注いでいる。 ●最後まで立って歩いて、踏ん張っていける人生の道を築けるように心がけている。 ●コロナウイルスにより外出を控え、室内で行事を行い四季を感じて頂けるよう、毎週「おやつレク」に力を入れております。 ●コロナウイルスの影響により、消毒・換気に関心を入れ、毎日体操し外出に関する事は制限しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームの特徴として、特別養護老人ホームと併設している他にも保育所も併設していることで、感染症問題が起こる前までは、子どもと高齢者が定期的に交流する取り組みが行われており、利用者の楽しみにもつながっている。ホームの建物内については、広めの空間が確保されていることで、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。現状、利用者の外出が困難な状況が続いている中において、利用者が日常生活を通じて機能訓練につながる取り組みも行われている。外出が困難でもあるため、職員間で検討を重ねながら、ホームのフロアの空間に手作りの鳥居をつくり、利用者に初詣気分を体験してもらう工夫が行われている。また、今年度の新たな展開として、2ユニット目の開設が行われており、新たな職員も参加しながら利用者への支援が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念「尊厳を大切にするケア」を念頭に、お一人お一人の思いを受け止め、地域のサービス利用を受けようとしている。 コロナにて令和2年6月から行っておらず	利用者が歩んできた人生(ストーリー)を大切にしたい支援が行えるように、理念の内容の共有と実践につなげ、管理者からの働きかけも行われている。また、職員で目標をつくり、理念の実践にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ対策にて、現在予定を中止している。 昨年5月ごろまで交流していた。 コロナにて昨年6月から行っておらず(夏祭り・敬老会・公民館まつり、全て中止)	今年度は感染症問題があり、地域の方との交流が困難になっているが、例年は、地域の行事に併設事業所とも連携しながら参加、協力する取り組みが行われている。また、保育園を併設していることで、日常的に地域の方が訪問している。	現状、地域の方との交流が中断している状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	病院、地域で困っている人を受け入れられるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウイルスの影響で、書通・メールでのやりとりとされている。 コロナにて今年3月から話し合いを行っておらず	今年度の会議については書面による実施となっているが、昨年度までは、併設事業所と連携しながら会議を行っており、出席者に事業所全体の現状を知ってもらう機会につながっている。	2ユニット目が稼働を始めたことで利用者が増えていることもあるため、今後、会議が再開される際には、様々な方との意見交換等が行われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナウイルス対策について相談させて頂いています。 コロナウイルスにて同市内、グループホーム連絡会はしばらく行っていない。何かある時は直接連絡して連携を強めている。	広域連合とは、併設事業所とも連携しながら交流が行われている。感染症問題があることで、今年度は様々な取り組みが困難になっているが、昨年度については、併設事業所とも連携しながら地域ケア会議の開催が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	広域での開催されている研修へ参加したり、施設で研修会を行い理解を深めている。 ベットの柵をできるだけ「2点柵」までと取り組み、それ以外現状ありません。	身体拘束を行わない支援を事業所全体で実践しており、広いホーム内を利用者が自由に移動できるような生活環境がつけられている。また、併設事業所と連携した身体拘束に関する委員会や職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	毎月、リーダー会議などで、確認や疑い行為等、話し合いを行い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要であれば、いつでも支援できるよう研修会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	申し込み時や入居時、管理者・ケアマネより丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を設け、対応を行っている。 毎月1回、必ず連絡を取り合い、要望を確認している。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、ホームの行事等を通じた交流が行われている。家族からの要望等については、内容にも合わせながら施設長や管理者で対応している。また、毎月の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より個別面談を行い、本音を聞けるよう対応を心掛けている。 毎月ユニット会議・リーダー会議・定例会議に反映させている。	毎月の職員会議や日常的な情報交換等から出された職員からの意見等は、管理者を通じてホームの運営につなげている。また、今年度から2ユニット目が開設したことに合わせて、ユニットリーダーを通じた職員間での連携にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人一人の長所を活かし、モチベーションを上げ職場の雰囲気づくりに繁栄できるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	PS動画による研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナウイルスの影響で制限をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前より、病院・自宅・申し込み時より本人様の不安な事、要望等、耳を傾けながら安心を確保する為の、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様の悩み・要望等、耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	申し込み時より、本人様・家族様の状況がグループホームでの共同生活ができるかどうか主治医を含め、判定会議を行い正直にお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様とゆったり入浴時間・お茶の時間をとり共に過ごす工夫を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナで面会が難しく、リモート検討中。ただ現在はガラス越しで、もしくは電話で絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナにて色々な制限があり、写真・手紙・電話にての実施に努めている。 最後まで自分の名前が書けるよう、机に向かい鉛筆を持ち、計算や名前を書いて頂けるよう取り組んでいる。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、例年は、利用者の中には、家族を通じて入居前からの関係継続にもつながる機会がつけられている。また、例年は家族との外出も行われており、身内の方の墓参り等を通じた外出も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	テーブルの配置や利用者同士の関係が良好となれるよう共同作業ができやすい工夫を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	断ち切らないよう必要時は相談させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に暮らし方や希望・意向を把握できるように日常会話を行い確認させて頂いております。お一人お一人の思いを受け止められるよう、家族・本人意向を確認している。	職員間で利用者を担当する取り組みが行われており、日常的にも利用者毎に分けられた申し送りノートを活用しながら、一人ひとりの意向等の把握が行われている。また、毎月のカンファレンスを実施し、利用者の意向等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	申し込み時、入居時、担当者会議の時に今までの暮らしの聞き取りを行っており、生活に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日、主治医・歯科医等、心身状態の把握やケア記録・状態の記録観察に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日モニタリングにチェック、食事量や排泄・バイタル等	介護計画については、利用者の状態変化等に合わせた見直しが行われており、6か月までに見直しが行われている。日常的にも介護計画の内容に合わせたチェック表に記録を残しながら変化等を把握し、毎月のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに基づいたチェックシートを用いて、記録を行いユニット会議で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	モニタリング・アセスメント・ケア記録・異常時の主治医との相談・家族様への連絡を行い個別支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響で制限しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診、月/2回あり、主治医と連絡・相談を行い家族へ連絡し適切な医療を受けられるよう、努めています。	協力医による医療面での支援が行われており、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。ホーム職員による受診支援も行われている。また、併設事業所に看護師が勤務していることで、医療面での支援に関する検討が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	グループホームでの看護職は少しの間、パート職員がおりましたが通常おりません。異常時は主治医と直接、相談しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が受けられるよう、病院関係者との情報交換・相談、家族様との相談を密に努めてまいります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りケアに向け、主治医・家族様・本人・職員を交え話し合い、意向確認・同意を頂き、支援に取り組んでいる。 現在1名のみ、看取りケアに取り組んでいます。	利用者の身体状態等に合わせた併設の特養への移行支援も行われているが、利用者や家族の意向等にも合わせたホームでの看取り支援も行われている。医師の協力を得ながら、利用者の段階に合わせた家族との話し合いが行われている。	ホームでは、利用者の看取り支援が行われたことで、職員間で多くの気づき等も得られている。今後に向けたホームの継続的な体制づくりにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に行えておりません。 コロナの影響もあり、訓練を(研修も)現在控えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回、実施予定するように計画しております。 コロナウイルスの影響にて昨年1回のみ行った。	夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている他にも、併設事業所と連携した取り組みも行われている。避難訓練に合わせて消防署の立ち会いも行われている。また、ホーム建物内に水や食料等の備蓄品が確保されている。	感染症問題が起きたことで、地域の方との交流が困難になっていることもあるため、災害に関する地域の方との協力関係についても、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレ・居室・入浴等、プライバシーの保護に努めています。 ご自身で施錠のできる設備や環境を整えています。	利用者の尊厳を大切に支援を行うことができるように、管理者からは、日常的に笑いがあるような雰囲気づくりを行う働きかけが行われている。また、職員の接遇にもつながる研修の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	余暇時間の過ごし方は、ご本人の判断にお任せしております。好きな飲み物を選んでいただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居時、時間に迷わない様、タイムスケジュールを居室に貼っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で選べられるよう、居室の間取りの工夫や好きな服を事前に家族様から情報を頂き、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	皆様が落ち着いて食べられるよう、配置に気を配り準備や片付けは役割をもって頂いています。 テーブルを囲み、目の前にホットプレートを置いて焼いてみたり、好きな物を選んでお皿に入れて食べる楽しみを感じて頂いております。 特に毎週日曜日、おやつを作ってもらっております。	おかず類については、外部業者から調達しており、併設事業所の厨房で盛り付け等が行われている。ホームでご飯を炊いている他にも、ホームで調理を行う取り組みも行われている。また、毎週のおやつ作りが行われており、利用者も参加する機会がつけられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量チェック観察と、好きな飲み物を提供できるよう、記録や表情を確認し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎月2回から3回、歯科往診にて確認・清掃を行い、日々声掛けを行い施行して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	できるだけ一人一人の排泄パターンに合わせて対応を行っています。使用に向けて尿量や頻度に合わせて考慮しています。間に合わない時もありますが、日中はほぼ自立しており、排便コントロール中である時に限る	利用者全員の排泄記録や一人ひとりに合わせた申し送りノート等も活用しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、利用者の中には、オムツからパンツに移行する等、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を一日1000ccを目指し、好きな飲み物を飲める工夫や、別の形で水分を摂取する工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴が楽しめるよう、入浴剤で香り、色を楽しみ肩や首、腰など手の届かないところを洗い、ご本人のペースに合わせています。年末等、特別企画として、時間を夕方に行ったりしてくつろいでいただきました。	月曜日から土曜日の間で入浴できるように、利用者の状況等をみながら声かけを行い、週2回を基本に入浴が行われている。利用者の希望にも合わせた入浴の回数にも対応している。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	気分をすっきりして眠れるよう、こまめに室内温度調整・室内明暗の調整、本人様用の布団・机の工夫を考えております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医・調剤薬局・目薬一覧表を申し送りノート等にて症状の確認・変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居時に、ある程度確認できるよう利用者様基本情報を用いて活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルスの影響で現在、外出制限をさせて頂いてます。特に急な場合は、ガラス越しで面会を行うようにしております。外出は急変時の病院と公共施設の手続きのみ。本人様の家族様への思いを受け止め、電話での会話・手紙・差し入れを考慮しています。	現状、利用者の外出が困難になっているが、様々な状況等にも合わせながら、ホームの近隣を散歩する機会がつけられている。また、自動車を活用した外出が行われており、季節等にも合わせた外出が行われている。	利用者の外出が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、利用者の外出が増える取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理のできる方はお小遣いを5,000円程、持っています。 コロナで外出はできておらず、必要な物は家族様へ負担をかけない様、預り金で今は対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の申し出がある時は、都合連絡が取れるように支援をさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニットのフロアに季節感を感じて頂ける掲示板・雑誌・情報誌で明るさを工夫しております。 心地よく過ごせるよう、昔懐かしい動画、好きな音楽等を流し、リラックスして頂けるよう工夫しております。	ホーム内は広くゆったりとした空間が確保されており、ソファを配置する等、利用者が好みの場所で過ごすことができる生活環境がつくられている。また、ホームのフロア内に大きな鳥居を作る等、利用者の楽しみにつながる雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	足のマッサージ機や、席を離れて座れるソファを工夫して設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安心できるよう、布団や枕、椅子やタンスを用意して頂くよう工夫しております。 ご自宅にあるテレビ・仏具・家族の写真・箸・コップ・茶碗等、工夫しております。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせて、好みの物等の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、身内の方の写真や自身の作品等の掲示も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯物を干したり、畳んだり周りの方の衣類も配ったり、自分の居室へ持って行っていただく環境を整えています。		